

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

「予防から早期診断、治療、緩和ケアまで」 がん治療への取り組み



緩和ケアチーム（医師・薬剤師・看護師）による回診

がんは、1981年以降30年以上にわたって死亡原因の第一位となっており、厚生労働省の研究班は生涯のうち男性の二人に一人、女性の三人に一人ががんにかかると推計しています。がんは日本人にとって「国民病」といわれるゆえんです。健康だと思ってもある日突然に告知を受けてもおかしくない病気ともいえます。

このような中、政府はがん研究の推進、地域格差の是正、患者さんの意向を尊重した医療体制の整備を基本理念とする「がん対策基本法」を2007年4月に施行し、国を挙げた「がんとの闘い」が本格化しています。しかし、一方ではがん治療の専門医の不足などによる地域間の治療格差、納得できる治療を求めて病院を転々とするいわゆる「がん難民」の増大が社会問題化している面もあります。

市立病院でもがん対策の推進を最重要課題と位置づけ、がんの予防から早期診断、治療、緩和ケアまでが地域で完結することを目指しています。

今回は、市立病院のがん治療への取り組みについてご紹介します。

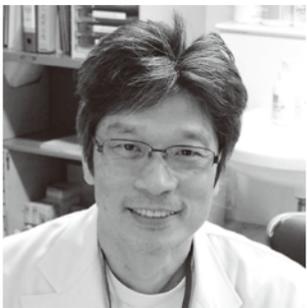
がん検診でがんは防げるか？

診療部長(兼)消化器内科部長 矢内 常人

世界保健機構(WHO)の報告によると、がんの3分の1は予防可能とされています。もう3分の1は検診などによる早期発見・早期治療で救命可能、残りの3分の1は残念ながら今の医学では完治できていません。

予防可能ながんとは

日本人で最も多く見られるがんに胃がんがあります。胃がんの発生にはヘリコバクター・ピロリという細菌感染が関係すると考えられています。ヘリコバクター・ピロリに感染していない胃からの発がんは1%程度とごくわずかです。ですから、ピ



矢内常人 医師

ロリ感染を治療すれば、多くの胃がんが防げるかもしれません。また、肝細胞がんの約70%はC型肝炎ウイルスの感染が、15%はB型肝炎ウイルスの感染が関係しています。B型肝炎はワクチンにより感染予防が可能になっています。また、C型肝炎の治療薬が次々と開発されており、C型肝炎は治療が可能な病気になりました。B型肝炎やC型肝炎が撲滅されればほとんどの肝細胞がんはなくなるでしょう。当院でもピロリ菌の除菌療法や肝炎治療を積極的に行っています。同じように子宮頸がんなどもウイルス感染が原因と考えられています。このような病原体感染により引き起こされるがんは感染予防やワクチンにより防ぐことができます。

検診が有効ながんとは

多くのがんはかなり進行しても無症状で経過します。症状が

現れるのはⅢ期やⅣ期ですがそのときにはもう手遅れです。Ⅰ期やⅡ期の治るがんも症状から発見することが困難なため、がん検診が重要です。ところが、がん検診の受診率は10〜20%と非常に低いのが現状です。がんの死亡率を下げるには、正しい検診を受けることが大切です。

胃がんや大腸がん、乳がん、子宮頸がんなどは早期がんから進行がんまでの期間が比較的長く検診が有効ながんです。当院消化器内科では、胃や大腸の早期がんであれば内視鏡的粘膜剥離術や腹腔鏡を併用した手術など、体への負担が小さい治療に積極的に取り組んでいます。

治療が困難ながんとは

あまりにもゆっくり進行するがんや逆に早すぎるがんは検診の効果がありません。

進行の早い肺がんや血液のがん、膵臓がんなどは検診では発見されにくく、治療も困難です。治療が困難ながんや進行したがんでも化学療法や放射線療法、内視鏡的治療などで症状をかるくし、早い時期から緩和ケアを導入して生活の質を向上させることが大切です。